

# 義務教育学校 根尾学園視察報告

(岐阜県本巣市立 根尾学園)

～ 朝日・高根地域の教育環境を考える ～

朝日・高根 地域ぐるみで子どもの育成を考える会

人口減少と少子高齢化が極端に進んでいる朝日・高根地域では、子どもの育成がまちづくりに大きく関係します。

「将来に向け持続可能で魅力ある地域をつかっていくための学校のあり方」を考える中で、朝日小・中学校が一つになった「義務教育学校」を目指し、保育園とのつながりを更に深め、郷土教育を中核とする系統的な育成方針のもと、「地域ぐるみで子どもの育成」を目指しています。

令和4年3月に朝日まちづくり協議会と高根まちづくりの会の両会長名により、「義務教育学校」を目指すための『提言書』を高山市長等に提出。更に朝日・高根 地域ぐるみで子どもの育成を考える会(※以下、「考える会」と表記。)を新たに設立し、令和6年2月には高山市へ提言している「義務教育学校の早期実現」のための『お願い』を改めて提出しました。

「義務教育学校の実現」をどれだけでも早く、一歩でも前進させるため、義務教育学校の先進地である根尾学園(岐阜県本巣市)の視察を行いましたので、概要を報告させていただきます。

◇根尾学園

○高山市同様に市内に複数の小・中学校が存在し、その中の1地域の小・中学校を義務教育学校にした学校である。

視察理由

○本巣市の中で山間地域に位置し、過疎化が進んでいる地域であり、児童生徒数も現在の朝日校区によく似た小規模な学校である。

◇期 日

令和6年12月3日(火) 午前6:00～午後3:25

◇視 察 先

岐阜県本巣市立 根尾学園



◇参 加 者

考える会を中心に15名参加

○考える会メンバー	中谷昭彦 会長・朝日まちづくり協議会会長 森本喜久男 高根まちづくりの会会長 川邊説子 朝日地区民生児童委員協議会主任児童委員 増田真美 高根地区民生児童委員協議会主任児童委員 森下健一 朝日小学校PTA会長 小林優衣 朝日小学校PTA保護者・ひよこ学級代表 池田新 朝日保育園保護者会保護者・ひよこ学級保護者
○学校運営協議会	長瀬真人 朝日小中学校運営協議会会長
○考える会顧問	松野智幸 朝日中学校長、水船達司 朝日小学校長、水口尚子 朝日保育園長
○考える会事務局	下畑英史 朝日支所長、尾前隆治 高根支所長、新井敏幸 朝日まちづくり協議会事務局長、中井剛彦 高根まちづくりの会事務局長

◇応 対 者

根尾学園 安江政利 校長、大野隆次 教頭

# 視 察 概 要

## 1. 全体会 1

- (1) 挨拶
- (2) 学校説明
- (3) 質疑応答

## 2. 授業参観並びに施設見学

- (1) 1年生から9年生まですべての授業を参観
- (2) あわせて、施設見学も実施

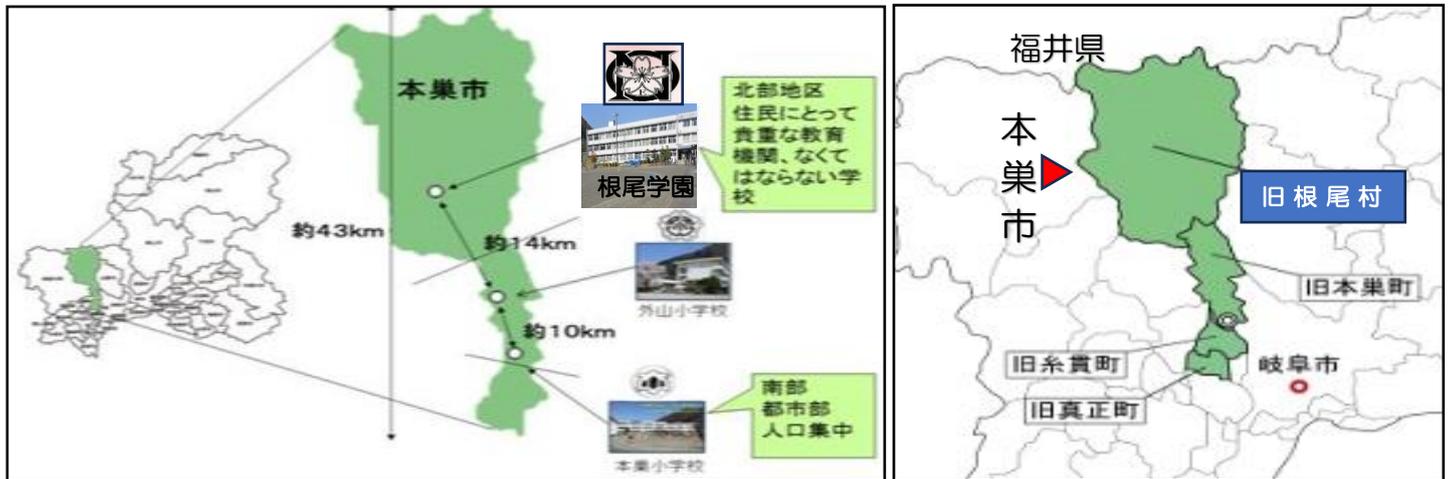
## 3. 全体会 2

- (1) 意見交換
- (2) 挨拶

### 《本巣市立 根尾学園》

- ・岐阜県で4番目、本巣市で最初の義務教育学校として根尾小学校と根尾中学校を統合して令和4年4月に開校。（旧根尾村にあった学校）
- ・旧本巣市立根尾中学校校舎と体育館の一部を改修し、新たにランチルームを増設した3階建ての校舎。
- ・本巣市は平成16年に本巣郡の旧本巣町、旧真正町、旧糸貫町、旧根尾村の4町村が合併して誕生し、令和6年5月1日現在の人口は32,067人である。岐阜県の西濃地方に位置し、根尾学園のある根尾地区は福井県に接している。
- ・根尾地域以外の3地域はいずれも岐阜市に隣接しており、交通の利便性も高いうえに、住宅地や企業等の工場が多く、平たんで人口も多く経済、産業、行政の中心地となっている。
- ・一方、根尾地域は北部を福井県境に位置し大半を森林が占め、人口は1,145人（R6.10末現在）と本巣市の3.5%に過ぎず、過疎化が進んでいる。
- ・令和6年度現在の小学1年生から6年生までの児童数は28人、中学校に相当する7年生から9年生の生徒数は17人、あわせて45人の小規模校であり、朝日校区に似ている学校。※朝日小学校：45人、朝日中学校29人（R6.12現在）
- ・令和6年10月末現在の幼稚園（3歳から根尾学園入学前の子ども）は5人。
- ・全校縦割りチームが導入され、児童生徒は3つのチームのいずれかに所属しており、異学年のメンバーで掃除や活動などを通じて様々な交流を実施。
- ・本巣市は学校選択制を導入しており、就学区域外の本巣市在住者でも、1年生の入学時及び7年生進級時においてのみ根尾学園を選択できる。

## 《根尾学園の位置》



## 《本巣市の人口・世帯数》 R6. 10末現在

	人口 (男)	人口 (女)	人口 (合計)	世帯数
根尾地区	530	615	1,145	613
本巣地区	3,350	3,585	6,935	2,989
糸貫地区	5,649	6,045	11,694	4,610
真正地区	6,521	6,643	13,164	5,055
市全体	16,050	16,888	32,938	13,267

## 《根尾地区の子どもの数》

※3歳～15歳（根尾幼稚園・根尾学園）  
 ※R6. 10末現在

50人（27世帯）

根尾幼稚園児：5人      根尾学園児童生徒：45人      ※年度当初より2名増加

## 《根尾学園の児童生徒数》

児童生徒数総数：43人

※令和6年度当初

前期課程	学 年	人 数	区 分		後期課程	学 年	人 数	区 分	
児童数 (小学校)	1年生	3人	複式	初等部	生徒数 (中学校)	7年生 (中1)	5人	複式	高等部
	2年生	4人				8年生 (中2)	4人		
	3年生	7人				9年生 (中3)	7人		
	4年生	4人							
	5年生	5人	複式	中等部					
	6年生	4人							
	小 計	27人				小 計	16人		
うち、特別支援学級：4人					うち、特別支援学級：0人				



校舎・体育館とグラウンド全景  
(旧根尾中学校施設を利用し、一部を増改築)



上空からの全景

※根尾学園HPより



ランチルームでの説明と意見交流会



根尾学園 安江校長の説明



中谷会長のあいさつ



日本三大桜：淡墨桜は地域の誇り



グラウンドの土は一般的な赤土ではなく、細かい砂がまじっている



遊具は旧根尾小学校から移設

## 《根尾学園の教育目標》

ふるさとを愛し、仲間と共に未来を切り拓き  
たくましく生き抜く児童生徒  
～ 自立・共生・創造 ～

### 《教育目標のための実践活動》

～ 特色ある教育 ～

※[学校要覧](#)から一部を抜粋

#### 1. 一人一人が輝き、誇りがもてる学びとくらし

～児童生徒の「学びたい思い」を伸ばす～

- (1) 予測不能な未来に対して、社会や地域、自分の未来を切り拓くために粘り強く学び続ける力を身に付ける。～「かがやき科」と「ふるさと科」・「生活科」による活動～

総合的な学習時間 (週一時間)	「かがやき科」：自分の夢や目標、強みを信じながら自分で決めたテーマを追求し、自分の可能性を見出す探求学習。 ・主体的・探求的な学びを通して、自分の夢を発見し実現する力を育てる。	7年生～9年生対象(中学生)
	「ふるさと科」：根尾への愛着と誇りを高め、根尾の未来を考える根尾ならではの特色ある探求学習。 ・根尾の過去や現在を知り、活力ある未来を目指して行動する力を育てる。	3年生～9年生対象
	「生活科」：子どもたちの気づきから学びを深めていく。 気づきの質を高める。	1年・2年生対象

- (2) 生きて働くコミュニケーション能力を培う「外国語活動・英語教育」  
～グローバル化の進展に対応できるコミュニケーション能力と国際理解力を育てる～

##### 【具体的な取り組み】

- ・少人数を生かして、ALTとコミュニケーションする機会を多くとり、9年間を見通した英語教育・外国語活動を行うことで学びが連続し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく伸ばす教育が実践されている。  
※1年生から英語教育・外国語活動を実践している。

#### 2. 責任感と思いやりの心を育む3つのチーム制

～「学年別チーム」・「初等部・中等部・高等部チーム」・「全校縦割りチーム」～

##### ◆全校縦割りチーム(異年齢集団)

##### 【具体的な取り組み】

- ・9年生をリーダーとする1年生から9年生までの3つの縦割りチーム。清掃活動や給食、行事の取り組みや委員会活動を実施。「日常生活」や「防災教育」に力を入れている。
- ・特に「防災教育」は、高学年がリーダーとなって子どもたちが自他の命を守り抜くために教師に頼らず、児童生徒自らが災害時に対応する実践訓練に取り組んでいる。

#### 3. 全学年教科担任制(チーム担任制)

～確かな学力の定着を図る。～

##### 【具体的な取り組み】

- ・より専門的な教科指導による確かな学力の定着を図る。
- ・教科担任としてすべての子どもたちとかわり続けることが可能で、9年後の姿を見据えた個別最適な学びを実践している。教師が2名以上かわって授業を行っている。

令和6年度 根尾学園 児童生徒数 (45人) ※年度当初43人

学年		人数	備考		縦割り班			
前期課程	1年	3人	複式	担任(1人)、副担任(2人)	たんぼぼ班	マリーゴールド班	サニー班	
	2年	4人						
	3年	6人	複式	担任(1人)、副担任(1人)				
	4年	4人						
	5年	3人	複式	チーム担任制(2人)				
	6年	4人						
	きずな学級	4人		担任(1人)、副担任(2人)				
後期課程	7年	6人	複式	チーム担任制(3人)				
	8年	4人						
	9年	7人		チーム担任制(2人)				
合計		45人(前期28人、後期17人 26世帯)						

教職員数 (合計30名)

	校長	教頭	教諭・講師	養護教諭	栄養教諭	事務職員	合計
常勤講師	1人	2人	13人	2人	1人	2人	21人

非常勤講師(2)、体育専門指導員(1)、教育相談員(1)、学校用務員(1)、ALT(1)、専任図書司書(1)、特別特任指導員(1)、スクールカウンセラー(1)

## いのちの恵み ～心と体の健康・体力～

『いのちを大切にし、いのちを輝かせる一人一人に』

◆心と体を鍛える  
げんきタイム  
5年生からの部活

◆命を守り育てる  
いのちの教育

◆心の安定・安心を生む  
3つのチーム制

### 根尾学園校歌

いのちの恵み

作詞 林正子  
作曲 宗次郎

一 淡墨桜 笑みあふれ

ひとみ輝く なかまたち  
明るく香る 学び舎に  
いのちの恵み 讃え合う  
我がふるさと 我がふるさと  
根尾学園

二 能郷白山 風わたり

若鮎おどる 根尾川に  
オカリナのうた 響く空  
いのちの恵み 奏で合う  
誇り高らか 誇り高らか  
根尾学園

三 温見峠に 燃える秋

稲穂かがやく 田に畑に  
雪降り積もる 冬をへて  
いのちの恵み 春を待つ  
未来へはばたく 未来へはばたく  
根尾学園

※この詞には、根尾を愛する人たちの願いが込められています。

# ～いのちを守り抜く・いのちを輝かせる～

○根尾学園は「いのちと向き合う。」教育が根底にあり、根尾の生きとし生きるすべてのものの命の恩恵に感謝し、根尾学園の子どもたちの命が輝き続けることへの強い思いを持っており、**校歌も「いのちの恵み」に感謝する歌詞**となっている。  
(作曲はオカリナ演奏で有名な「宗次郎」。)

## 《探求学習》 ～「かがやき科」と「ふるさと科」～

根尾学園は「総合的な学習の時間」を核とした探求学習に力を入れている。

○「かがやき科」は、7年生から9年生の中学生に相当する3学年が縦割りで、自分の夢の発見と実現のための学びを週1時間実施している。

・根尾学園が発足してから新たな学びとして新設された。

○「ふるさと科」は、3年生から9年生までの7学年を縦割りとして根尾への愛着と誇りを高め根尾の未来を考えるための学びを週1時間実施している。

### ◆かがやき科

～自分の可能性に気づき、自分を磨き高める～

・主体的、探求的な学びを通して、自分の夢を発見し、実現する力を育てる。

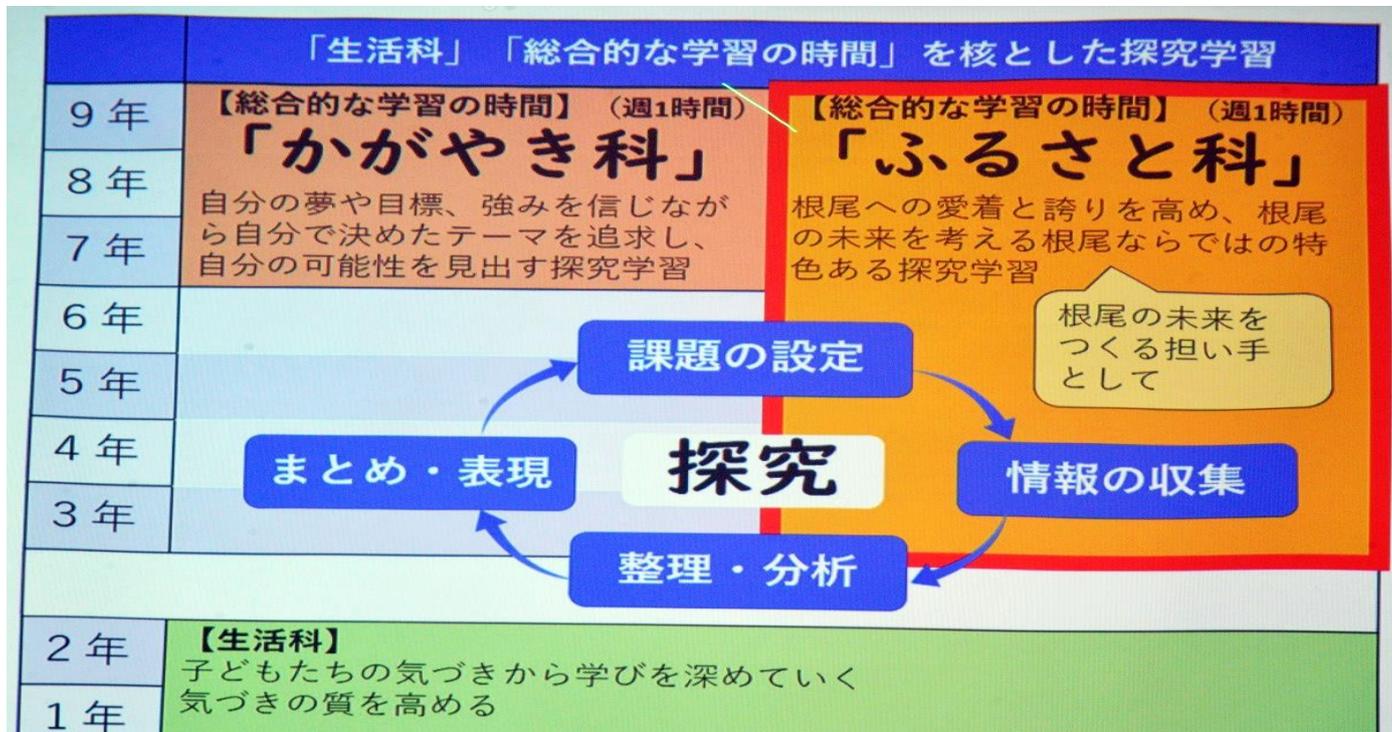


### ◆ふるさと科

～根尾への愛着と誇りを高め、持続可能な根尾の未来を創り出す～

・根尾の過去や現在を知り、活力ある未来をめざして行動する力を育てる。





## 《その他の特徴的な取り組み》

### ◆外国語活動・英語教育

～生きて働くコミュニケーション能力を培う～

- ・グローバル化の進展に対応できるコミュニケーション能力と国際理解力を育てる。
- 少人数を生かして、ALTとコミュニケーションする機会が多くとれる。
- 9年間を見通した英語教育・外国語活動を行うことで学びが連続し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく伸ばすことが可能。

### ◆防災教育にも力点

～「全校縦割り班」による防災訓練の実施～

- ・日頃から小さな訓練を積み重ねている。
- ・地震などの災害発生に対する二次被害の対応訓練。
- 子どもが自他のいのちを守り抜くために行動する。

いつ起きてもおかしくない災害や事故から、**子どもたちの命を「本気」で守り抜く。**

↓  
教職員の「本気」を子どもたちが見ている。

### ◆たくましく生き抜く児童生徒

～「主体性」と「当事者意識」を育む活動～

- ・未来を切り拓くために、一人一人が「かがやき科」を中心とした「探求学習」を通じた活動を実践。
- 自己選択・自己決定・自己解決・自己責任を育む。  
誰かが何とかしてくれるのを待つのではなく、**自ら考え判断し、行動する。**
- ・子どもの遊びを枠にはめない。・・・見守る。子どもが主体的に学ぶ環境を整える。
- ・多様な人との「対話」を通して、**自分の考えや立場を再確認する。** 専門家との対話。

## 《授業参観の様子》



1年生の国語授業



4年生の英語授業



5年生の算数授業



3年生の理科授業



掲示物から英字をみつける様子(4年生の英語学習)



7年生～9年生の体育授業



図書室



玄関：昭和23年建築の旧根尾中学校舎を利用しており、校舎自体は古い感じ



校門から体育館を見る



教職員数は30名。駐車台数が物語る・・・



根尾学園 大野教頭の説明

## 《視察を終えて…。 参加者の感想》

※参加者全員から感想をいただきましたので、3つの項目に分けて全員の感想を報告します。

### 1. 義務教育学校について

- 9年間子供達の成長を見ながら、成長に合った学習指導をしてもらえるのは、子供達も安心だろうと思いました。  
たてわり班やげんきタイムなどは、今の朝日小でも取り入れられていて、とても良い取り組みだと思います。これから義務教育学校へ向かうのですが、今の時点でも取り組みとして取り入れられているものは沢山あるなぁと思いました。
- 近い将来なるであろう規模の学園だったため、こうなるだろうというイメージができた。  
やはり、少人数では寂しいと感じた。  
義務教育学校になって、よほど特色のある学校にならないと人は増えないと感じた。  
根尾学園も10年後はどうなるのかと思った。  
個人的には義務教育学校が起爆剤になればという思いだが、やはり保護者をはじめ意見を聞いて進めたい。現状を知らない人が多いし、話し合う機会がほしい。
- 一人一人に寄り添った教育ができていると感じた。地域の愛を育むといった点は朝日と同じだと思った。縦割り授業によって学年に関係なく、思いやりのある子に育てることができている。
- 朝日とやっていることは同じ事が多いので、参考にできる部分は多いと思った。実現に向けての考え方が少し違うのかぁと思いました。
- 「どうして義務教育学校にしたいのか？」という質問に対して、私は今までこう答えていました。「子どもの数が少なくなり、小・中別々にするより一緒にした方がいろいろな面で有効的だから。」でも、そういうことではなかった。  
小学生から中学生までを見通し、子どもに合った一貫した教育ができるから。（今の時代に合った教育）千人規模の義務教育学校もあると聞き、私の今までの考えを改めると共に、保護者になられる方たちには是非その話（義務教育学校について）を聴く機会があるといいなと思った。  
できれば根尾学園の校長先生にお越しいただき、話をさせていただければ、よく理解してもらえるかも。
- 普通の小中学校よりメリットの方がはるかに大きいことを改めて感じた。今後、小中学校での連携をさらに深めるとともに、どんな学校を目指すのか、子どもたちにどう育ててほしいのか、地域の皆さんと深めていきたい。
- 今回視察に行かせていただきありがとうございました。朝日・高根の子どもたちにとってより良い義務教育学校となってほしいので、保護者の方々をはじめ地域の方と話す機会をたくさんもって同じ方向を向いて進んでほしいと思います。
- 地域から学校がなくなると…なくしたくないという基本は同じだと感じたが、子どもが少なくなったので義務教育学校にすると言う考えではうまくいかないとの話に思わされる場所があった。  
学校区を廃止すると学校に魅力を感じ転校、移住はあるかもしれないが、逆に出て行ってしまふ子ども、家族がいるという話も、その通りと痛感。  
教員数に驚きました。子供一人に大人一人に近い体制にビックリ。

○児童生徒数や山間部の学校、サルの出没など朝日校区の環境にかなり近い義務教育学校であることが実感できました。

義務教育学校でも複式を余儀なくされ、本当に小規模な環境での学びの視察でしたが、小規模校の特性を生かした縦割り学習での様々な学びは、高学年がリーダーとなって異年齢集団でのつながりをいやでも持たなければならないので、近くに子どもが少ない地域にあっては非常に有効な学習の姿だと改めて感じました。

少人数での学習は、非常に親近感をもって見学できました。

理科の授業では、子どもたちと教諭との関係が非常に近くてのびのびと自由な学習風景が非常に印象に残りました。

教科担任制でしかも複数担任制なので、子どもたちは手厚い指導が受けられていました。

○安江校長先生の最後のあいさつで、『人数が少なくなったから義務教育学校にしようとした安易な発想からスタートでは成功しない。』のフレーズに“ハッ”とした。

児童、生徒、教師、保護者、地域住民が当事者意識を持って、主体的に考え進めていくことが大切であることを再認識した。

校長先生の説明が素晴らしかったこともあり、朝日・高根地域の学校に合っていると強く感じた。

保護者にこの話を聞いてほしかった。できればオンラインで説明会が開催できるといいかも。メリットにもありましたが、教職員数の多さにびっくりした。

児童生徒はたくさんの先生と関われ、自分に合った先生にめぐり会い、充実した学校生活を送れるのではないかと感じた。

9年間を見通した郷土学習等カリキュラムや全校縦割り班活動で郷土愛、社会性が育成され、児童生徒、保護者、地域にとってメリットを感じた。

○義務教育学校は、「地域の子どもの数が少なくなってきたので、小学校と中学校を1つにするものでない。」ということ、今回の視察を通じて再認識させてもらった。

一番のメリットは、「9年間通じた教育を考えることができる」ということ。

高等部（7～9年生）の生徒が、初等部（1～4年生）の児童への「おもいやり」、「やさしさ」を学ぶ、経験させる場所として適切な教育ではないかと感じた。

○「ふるさと科」や「かがやき科」という科目があり、地域のことを学ぶことや、自己を磨き高めることなど、子どもたちが各自テーマを持って主体的に取り組めるよう工夫されていると感じた。

○根尾学園の子どもたちと先生方が、大変リラックスし無理な緊張感なく夢中になって授業課題に取り組んでいる姿が強く印象に残りました。

来校見学者が多く慣れていることも要因の一つではあると思いますが、子ども主体の指導が徹底され、子どもの意識をつかんだ課題設定がされているため、やらされている学習ではないことが一番の要因であると感じました。

何故それができるのか。それは教科担任制のためだと思います。専門教科の指導が、教材研究の質を高めていると考えられます。義務教育学校のすばらしさを感じました。

○規模的に同じような人数、立地条件で参考となる点があり、これから目指す朝高にとって視察してよかったと思います。

理科室での3年生  
の理科授業の様子



## 2. 施設について

- 大きな中学校が少子化で空き教室がいっぱいだった所を義務教育学校にできた事は設備にそれほどお金をかけずにすんでとてもラッキーですよね。朝日は最低でもあと4教室必要と聞きました。でも木造なので鉄筋よりは増築はやりやすいとポジティブにとらえて！市の許可がおりるといいなあと思います。
- 中学校にランチルームを増設させただけの施設だったので、朝日高根の学校も今ある小学校に必要最低限の増設で良い予算で、そんなことが出来るか分からないが、その分のお金を何か子どもたちにとって魅力的な楽しいものを設置出来たらよい。
- 思ったより改修工事が少なく済んでいる。
- 朝日小学校の状態とは少し違うので何とも言えませんが……教室の数が多く広々と使えていてよいと思いました。各教室の後ろにある大きいテーブルが良いと思いました。
- どれだけ少数になっても、担任制の仕組みを変えても、授業するための9教室は必要であることを再認識しました。（以前は複式学級になれば、担任が1つの教室で2学年の授業をしていたので。）  
根尾学園の校舎は新しさは感じませんでした。しかし、無理な改装・改築をするより、あるものをできる限り使うという方が、これからの時代大切だと感じました。  
改装・増築は必要最小限として、人や内容で温かさが伝わるような学校を目指したいと考えます。
- 小→中or中←小で片方の学校の校舎が大きい（空き教室がたくさん）と少ない改修で開校できると感じた。  
朝日地区でこれは無理なので、すべての希望施設を要求するのではなく、予算を多くかけなくてもできる部分はOKとして、早く施設を整えられると嬉しい。  
中学生生徒が学習するスペースの新築が朝日では絶対必要である。
- 根尾学園については職員の方が真剣（本気）で向き合っている見えることを感じました。きっと保護者の方もそうだと思います。
- 中学校の校舎をベースにしているため、結構施設的には老朽化しているが、従来の施設を有効活用できているのは、小規模校のメリットではないかと思いました。  
元が中学校なので、もともと専門教室があり、子どもたちは小さいうちから専門的な施設で学習ができるのもメリットだと感じました。
- 校舎は新しければよいとの考えがなくなりました。小中が同じ校舎となると、想像を超えた工夫が必要と感じた。
- 旧校舎を利用され経費を最小限に抑えてあり、参考にすべきと感じた。
- 初等部、中等部（1～6年）が使う2階の教室の出入り口には、段差がないよう板（スロープ）が貼られており、バリアフリー対策が施されていた。トイレが、「おしゃれ」で「きれい」の印象を受けた。さくらホールは、全児童と生徒が集まるランチルーム、コミュニティスクールの拠点、地域交流の場となっており、義務教育学校には必ず必要な施設であると感じた。
- 少人数のため多くの教室を使って授業が実施されていました。朝日小中も同様の環境であるので、施設を有効に活用できたらと思いました。

- 老朽化している印象は受けたが、各教室ともさまざまなレイアウトで活用されていると感じた。  
中学校の校舎を使用しているということで、低学年の子が立ち入ると危ない場所などにはしっかりと対策がなされていた。
- 既存の校舎を利用して始めているところは、私たちの学校施設と似ており、必ずしも新しくする必要はないと感じた。  
三階建てであったが、低学年の子どもにとっては少し厳しいと思った。

### 3. 自由意見

- 私が今回の視察で印象に残った校長先生の言葉は2つあります。  
1つは、子どもが少なくなったから一緒にするという考えではいけない。ということ。  
これからどんどん少子化で、どの学校も学区を広げます、学区なくなります、となった時に選ばれる学校にしていけないといけないということでした。  
校長先生からは、その自信とやる気を感じました。  
2つめは、ゆくゆくはたてわり班をクラスにしていきたい。ということでした。  
少子化をみすえてということでしょうか、私の子どもも近年では1番少ない学年なので、朝学校に登校した時、クラスでお兄さん、お姉さんがにぎやかに待っていてくれたら本当に心強いだらうなぁ～と感じました。
- 平成30年から3年程度で話し合われ今の根尾学園がスタートとしたとの事だった。話し合いの中に子どもたちという言葉があり、校長・教頭が子どもたちが何年生から何年生を指すのか、わかって見えなかったのは残念だったが、これからこの会を進めていく中で、子どもたちや保護者の意見は大事だと思うので、意見を言える、聞ける、考える機会を設ける必要があると感じた。
- 哲学対話がおもしろく、やりたいと思った。かがやき科のやりたいこと特色を生かし伸ばす、といったところがすごく良い。
- 2年生の女の子とお話をさせてもらいました。昨年チューリップの球根の芽が出たところで鹿に食べられてショックだった……。という事から、今年はネットで柵をして食べられない工夫をしたと話してくれました。  
秋神小学校はずっと縦割り班だったので、当たり前にも思っていました。複式学級も…。
- 根尾学園は校長先生のお話、子どもの様子、掲示板などから見ても、「一人一人の存在を大切にしている学校」だと強く感じ、それと共に地域の皆さんが学校を大切にしていることを強く感じました。まったく同じことはできないけれど、朝日町もその気持ちを目指して地域一丸となっていけたらいいなと思う。
- 義務教育学校開設に向けて「これからの学校像を創り出すという強い思い」があったというお話がありました。まさに学校全体の仕組みやPTAの解散、地域行事の参加の仕方など、これまでの概念にとらわれず進めていくべきだと感じました。「いつ開設か」でスケジュールは変わってくると思いますが、その準備と分担（地域で考えて決めていくこと、地域、学校が合同で進めること、学校が保護者と決めていくことなど）は、おおよそ考えておくようにしていきたい。  
貴重な視察、見学ができました。ありがとうございました。
- 会長様をはじめ事務局の皆様には貴重な視察を計画してくださり、ありがとうございました。校長という立場から学校内の教室の充実を今後も図っていきます。

○私たちというか……役の方たちがもっと発信していく必要があると思います。  
何をどうと……具体的には言えませんが、まずはそこからかな～と思います。  
これは自分に対してですが、小さいころから朝日・高根を好きでいられる子に育てていきたいです。小さな力ですが、がんばらせてもらいたいと思っています。

○校長の「人数が少なくなったから義務教育学校にするのではなく、9年間を見据えた方針をしっかりと持つことが大事」という言葉は説得力がありました。  
今後、義務教育学校を進めるうえで認識を皆で共有することが大事だと実感しました。  
児童生徒数が減少し、将来的な不安も抱えるなかでも「ふるさと科」と「かがやき科」を中心とした縦割り学習により郷土教育の徹底がなされており、朝日校区でも一層の励みとなる。その中で、一人一人の「当事者意識」と「主体性」にこだわり、「命の大切さ」を自分自身のこととして学んでいく姿は、大いに参考となりました。  
少人数で、学校の部活も自分の好きな種目を学校ではできない、保護者の中には大きな学校で学ばせたいという思いの方もいるようで、こうした悩みはどこも同じだと実感しました。  
一戸建ての市営住宅が何棟も「無償譲渡する」PRが大々的にされていたのには驚きましたが、学校だけでなく地域や市全体でより魅力ある校区にするためのアイデアや努力が益々必要だと感じました。今後の活動の糧としたいです。

○義務教育学校とは……？ なぜ朝日高根地域は義務教育学校を目指すのか？地域住民との共有、話し合いの機会が多く必要と感じました。

○PTA、保護者会と相談しオンラインでの研修もありかと思う。

○根尾学園で行われている「ふるさと科」は、朝日、高根では既に行われている「郷土教育」と同じであり、少人数ならではのこぞできる学びである。  
義務教育学校設立後、学区を廃止した場合、外から朝日へ移住（又は通学）して学び望む子どもが増えることは期待されるが、一方で、朝日から市内の大きな学校へ転校を望む子どもが増えることも懸念される。  
そのため、学区の在り方については、市（教育委員会）とも一緒になって検討すべき課題であると捉えている。  
百聞は一見に如かずということわざがあるように、今回、自分の目で義務教育学校の現場を見ることが出来たのは、とても貴重な経験であり勉強になりました。ありがとうございました。

○人数が少なくなったから小中を合わせて1つの学校にするという事ではなく、9年間の体系的なカリキュラムや、地域、時代にあった学校をつくるんだという校長先生、教頭先生の強い思いが伝わった。  
3つの全校縦割りチームや将来的には縦割り学習を基本にしたいという計画など、限られた子ども的人数の中でも、できる限り多くの子と過ごせるよう考えられていて、朝日・高根においても参考になると思った。

○縦割り活動により、心やさしい思いやりあるめんどう見のよい上級生と、かわいがられる下級生の姿が育っていました。  
少人数であることのデメリットを縦割り活動で克服する実践でした。異年齢集団の中で多くの子と接し、刺激と発見が生まれると感じました。それが逆に少人数のメリットとなっていました。  
縦割り活動からさらに縦割り学級の構想を校長先生から聞きました。初めて知る学校経営構想でした。義務教育学校には現在、優秀な管理職が配置されるのは、高山市だけではないと感じました。

○教育目標がふるさとを愛し郷土を大事にするという、私たちの目指す方向と一緒に心強く感じた。

幼児～9年生まで一貫性を持ったの指導体制をとっている点はとても良いと思った。特色ある教育を図ることを目指している点、私達の学校も何を特色とするか、今から皆で検討して、目指す方向を決めていく必要があると思った。

地域が過疎で学校が少人数になったから義務教育学校にするのではなく、1年生から9年間の学習カリキュラムをしっかり作り、9年間でどんな子どもに、どんな学校にしていくのかを明確にすることが大切です。

○根尾学園 安江校長の挨拶での言葉です。

地域と学校がしっかり考えていくべき大事な視点だと改めて気づかされました。



根尾学園  
参加者全員です。